

1（1）学校と連携した地域文化の担い手の育成事業

①昔の農作業体験「草取り(ラチ)」

令和元年6月16日（日）

於：砺波市庄川町示野

エントランス庄川

○草取り作業（ラチ打ち作業）

手作業時代の農作業を体験することで、今の暮らしを考える。また昔の暮らしとの繋がりを考える。

《写真》



砺波市庄川町青島公民館、庄川小学校の協力を得て、小学校5年生を対象に、昔の農作業体験（草取り作業）を学習した。当日、田植え作業を行った庄川町示野の圃場で、実際に中耕除草機（ラチ）を使い、草取り作業を体験する予定だったが、台風の接近を受け、急遽、座学となった。郷土資料館より、教材用農具（ラチ）を貸し出して掲げ、昔の作業風景を説明した。小学生：48名、保護者：15名、支援ボランティア（公民館）15名、実行委員会事務局：2名参加。

「草取り機(ラチ)」の歴史や機能を学習後、現物を観察したり、触ったりしてみた。

○内容・経過

昔の草取りは手作業だったが、草取り機（ラチ）の発明により、作業の効率と収穫率が格段に上がった。一番ラチ、二番ラチ、三番ラチと3回、苗の間に入れて交差するようラチがけする。ラチの種類も3種類ほどあり、使い分ける。草自体が科学肥料のない時代は肥料となったことに、子ども達は驚いていた。

全体会での質問には、参加者の中の年配者の説明もあり、楽しく終了した。

説明補助者が20代で、子ども達の年齢に近いいためか、ラチを高く掲げ説明したことが新鮮だったのか、子ども達の反応も良く、個別の質問も多くあり、積極的に中耕除草機（ラチ）を触ったり、引っ張ってみたりしていた。

○小学生の質問

「ラチがけはどのくらいの間で行ったのか？」

→反別にもよるが、だいたい1～3番ラチまで10日間くらいの内に行った。それ以上、期間が長くなると、せっかく張ってきた稲の根っこまでもラチの刃で切ってしまう、稲の成長に支障をきたすから。（支援ボランティア回答）